



G I G Aスクール構想とは？

1人1台のタブレット端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、その能力を最大限引き出そうとする文部科学省の構想。

I C Tとは？

インフォメーション コミュニケーション
Information and Communication
Technologyの略。パソコンやスマートフォン、タブレットなどを活用した、情報通信技術のこと。



整備状況（令和2年12月完了）

- 小中学校の児童生徒1人1台のタブレット端末（iPad）3,749台、教員用295台
- 小中学校の高速大容量の通信ネットワーク（普通教室、特別教室、体育館など）
- 家庭でのWiFiルーター購入費補助

恵那市のG I G Aスクール

タブレットは 私たちの文房具

問 学校教育課 26-2111（内線453）

I C Tを活用した教育

子どもたちは、I C Tが発展する未来を生きていきます。そんな中でも、全ての恵那の子がたくましく生き、郷土に誇りと愛着を持って、人生を力強く切り開いてほしいと考えています。国の「G I G Aスクール構想」によって、市では、校内ネットワークと一人一台のタブレット端末の整備を完了しました。I C Tを活用することで「主体的・対話的で深い学び」につながるよう目指しています。さらに、不利だといわれる立地条件の克服、特別な支援を必要とする子どもへの支援、一人一人に合った学習なども実現できます。本号では、昨年度から始まったI C Tを活用した教育を紹介します。

学校や学年によって使う頻度に差はあるものの、市内どの学校でも、日常の授業風景にタブレットがあります。授業でのタブレット利用というと、インターネットによる調べ学習や、講師がウェブ会議システムZoomで参加する授業などを想像しがちですが、実は、それはほんの一部。各学校ではさまざまな活用方法を実践し、それを共有しながら、より効果的な授業になるよう取り組んでいます。市内の学校でどのように利用されているか、その一例を紹介します。

現場で感じる子どもの様子

4月から本格的にタブレットを使っていますが、大きなトラブルはなく、スムーズに使えています。生徒を見てみると、自分の考えをまとめ、伝える力が付いてきていると感じます。先日生徒会選挙の立会演説会をZoomで行いましたが、生徒は自分の思いをプレゼンテーション資料に表現し、堂々と話していました。今後も、より効果的な使い方を検証しながら、さまざまな活用方法を探っていきたいと思っています。



恵那東中 水野雄介先生

ココが変わった！ 学校間をつないだ遠隔授業



本市は、広い面積に小規模校が点在し、学校内だけで多様な意見や価値観に触れることが難しくなっています。そのため、他校の子どもたちと交流して刺激を受け、学びに対する意欲が向上するよう、積極的にICTを活用した教育を行っています。

上矢作中学校と串原中学校をつないだ授業をはじめ、すでに多くの学校で、オンラインを活用した遠隔授業や行事、生徒会活動などの交流を始めています。本年度は、こうした取り組みを一層充実させていきます。

ココが変わった！ プログラミング

ソフトバンク㈱との協定により、ソフトバンクロボティクス㈱の人型ロボット「Pepper」を活用しています。昨年度は全学校を巡回して、触れて慣れることから始めました。今後、楽しみながらプログラミング学習ができるよう、活用していきます。一方、㈱ROBOZとの協定により、ドローンを活用したプログラミング教室も始まっています。本年度、上矢作小学校ではドローン教室を定期的に行い、自らプログラミングしたドローンを飛ばしています。



ココが変わった！ 友達の意見を共有できる



先生から問題が出されたらノートに答えを書いて、写真に撮って送信。先生は全員の考え方が瞬時に分かります。提出された答えを子どもたちのタブレットに共有させることで、友達の答えから自分との違いを見付け、学びを深めることができます。

一斉授業



恵那西中3年 安江満友菜さん

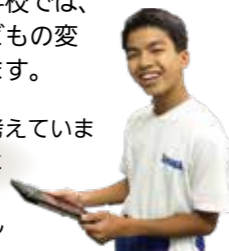
今までは分からないままにしていたことも、タブレットがあるとその場で調べられます。友達の意見も共有できるので、理解度が深まります。

子どもたちの生活を見守る

現在、「スクールライフノート」というアプリに、自分の感情を天気でも表現したり、今の思いを残したりしています。学校では、アプリに頼らない関係性を大切にしながらも、子どもの変化に瞬時に気づき、声を掛けるきっかけとしています。

今日は眠いなあと思っても、どうして眠いのかなんて考えていませんでした。心の天気を入力するようになって、自分と向き合い、なぜそう思うのか考えるようになりました。

山岡中3年 宇野龍多郎さん



心の天気を入力するようになって、自分の気持ちをコントロールできることが多くなりました。自分の気持ちの変化をたどっていくと、改善すると良いところが見えてきて、生活にリズムができました。

山岡中3年 伊藤彩花さん

地域とつながる

恵那東中学校では、防災学習にもICTを活用しています。生徒らはタブレットで、自宅付近で自然災害が起こりそうな場所を写真に撮り、プレゼンテーション資料に仕上げました。感染症拡大により形が変わってしまいましたが、地域の防災会議で生徒代表が発表する予定です。



通学路を改めて見たら、深くて流れの速い用水路があったので、写真を撮りました。写真上に、どこが危険か書き加えたり、図を利用したりして、発表資料を作りました。

恵那東中2年 奥山草平さん

ICTで学びが変わる
コロナ禍でのICT
夏休み明け、いち早く、県立高校はオンライン授業となりました。市では、感染症への不安から登校を自粛する児童生徒や自宅待機を余儀なくされた児童生徒のために、教室での授業をオンラインで家庭に届ける「ハイブリッド授業」を始めました。不透明な状況が続く中、今後もICTの活用などで、学びを止めないよう進めます。

ICTで学びが変わる
ICTの活用で、自分の考えを広げたり、話し合いを深めたりできること、自分の考えを伝える力にもつながることが実践されています。工夫次第で、子どもたちが必要に応じて自分の学びを進めていくこともできます。ICTは、使うことが目的ではなく、一つの学びのツールです。今後も、子どもたち一人一人の「できた」「分かった」につながるよう、有効活用を進めていきます。

ココが変わった！ グループでの交流が活発になる

協働学習

グループやペアで交流するときも、先生から送られた資料や友達の意見を見ながら話し合いができるので、活発な議論が行われます。

発表するときは、プレゼンテーションソフトが便利。相談や修正も画面上でできるので、スムーズです。



恵那北小5年 林仁衣菜さん



グループの子に説明するときに、画面を見せながら線を引いたり丸を付けたりできて、伝わりやすくなりました。

ココが変わった！ 自分に合った問題ができる

個別学習

一人一人の理解度に合った問題が出されるAI型学習アプリで、演習問題に取り組みます。

先生は、子どもたちがどこまで進んでいるのか、どこでつまづいているのかを簡単に分かるため、きめ細かな指導につなげることができます。



長島小2年 吉村総一郎くん

タブレットを使った授業は楽しいです。自分の進み具合に合わせて使えるのがいいと思います。僕は国語をがんばってるから、アプリでは国語のドリルが進んでいるよ。